

目次

1. 位置付け・上位計画
2. 学研高山地区第2工区(全体)
3. 学研高山地区南エリア(先行地区)
4. 学研高山地区ゲートエリア(次工区)及びFエリア

最近の経緯(R6.9～)

地区の概要

面積：約288ha
権利者数：約1080名(代表者) R8.8時点

経過概要

[経緯]

令和6年

12月 学研高山地区南エリア土地区画整理準備組合設立

令和7年

4月 都市計画変更(都市計画道路 高山南北線・高山東西線)

8月 生駒市都市計画審議会報告

10月 **関西文化学術研究都市の建設に関する計画変更**
- 奈良県域の学研都市についての総合計画 -

令和8年

3月 **けいはんな学研都市第5期ステージプラン策定**
- 関西文化学術研究都市建設促進法の実行計画 -

5月 学研高山地区及び周辺地域価値向上事業
構想提案報告会

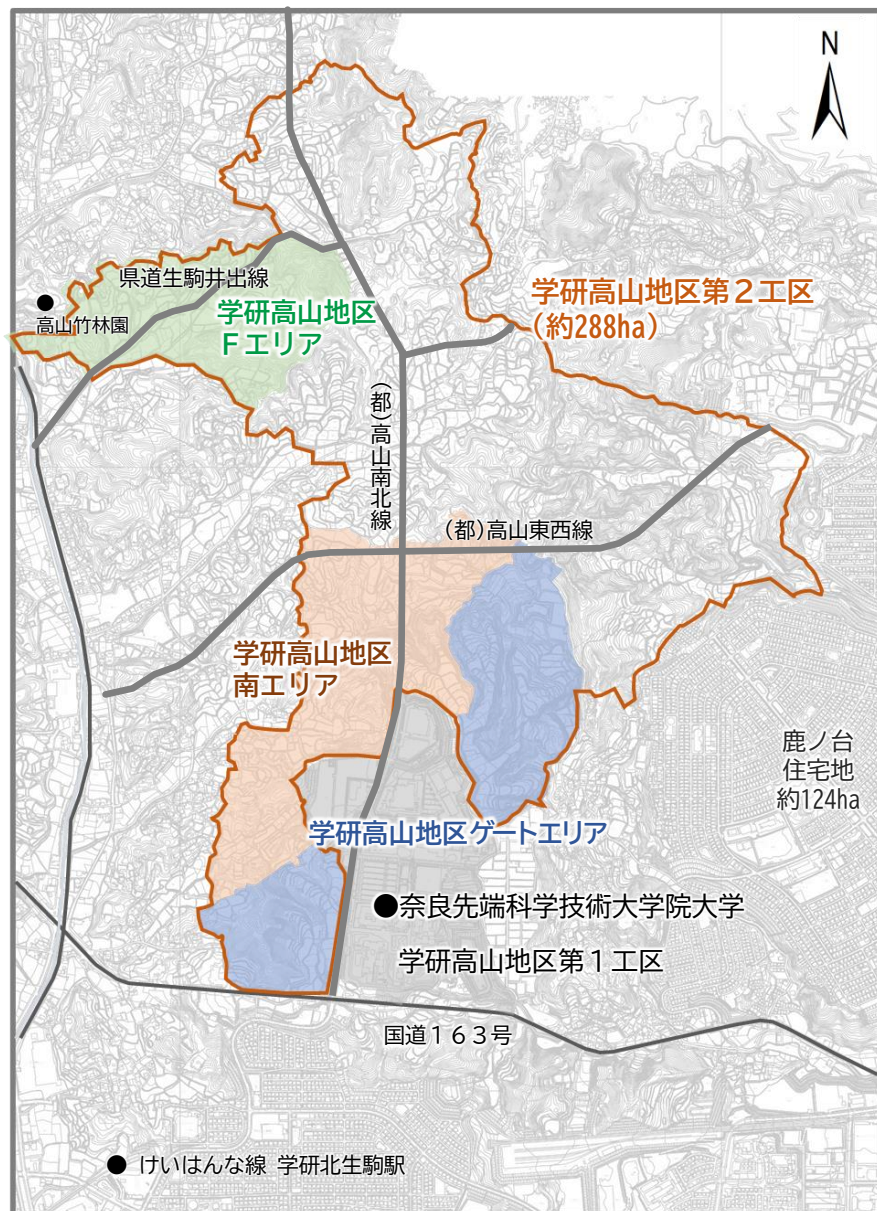
8月 学研高山地区ゲートエリア土地区画整理準備組合設立

[会議]

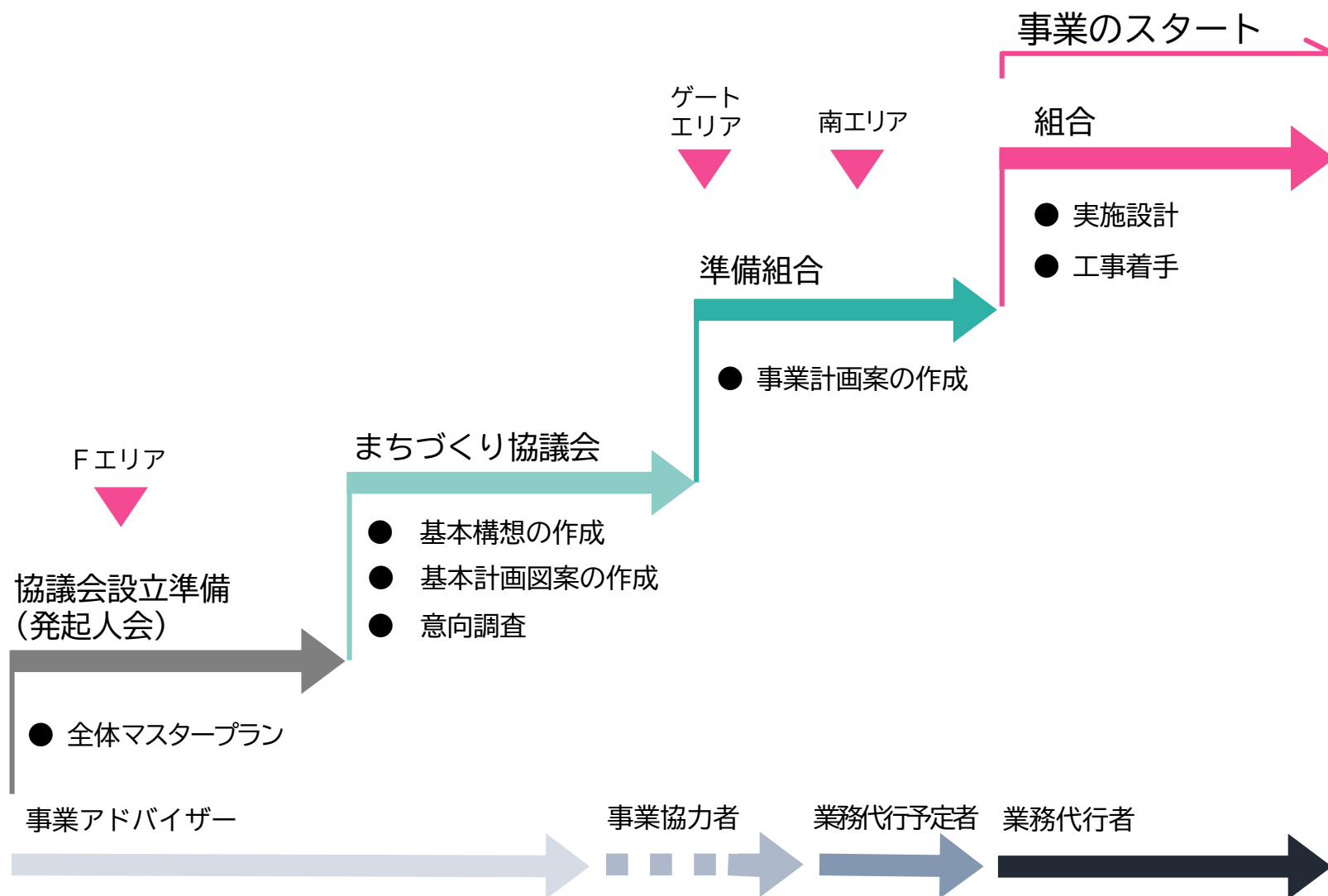
地権者の会総会 2回開催(全9回)

地権者の会役員会 3回開催(全38回)

学研高山地区第2工区事業推進会議 3回開催(全6回)



各エリアの事業時点と事業の流れ(土地区画整理事業)



※上記の事業の流れは、各エリアの進め方により変更となることがあります。

奈良県建設計画

計画の概要

- **関西文化学術研究都市建設促進法**第5条第1項の規定に基づく計画。
- **奈良県域の学研都市についての総合計画**。内容は、都市機能、施設整備の方向、人口規模、土地利用の方針、各文化学術研究地区の配置・土地の利用に関する事項、文化学術研究施設の整備に関する事項等。

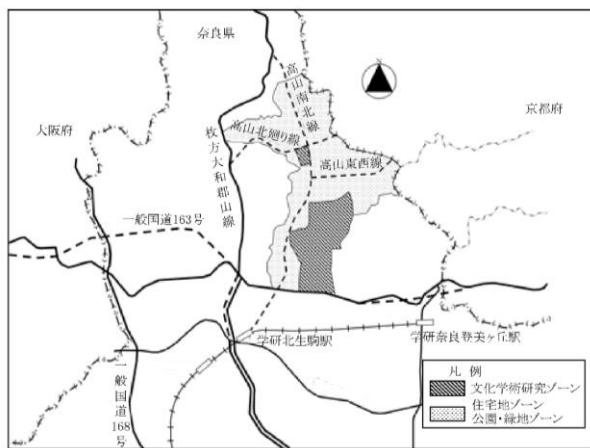
今回の主な変更点(R7.10変更)

[まちづくりの方向性]

学研高山地区第2工区マスタープランにおける「産業を中心としたまちづくり」とする方向性を受け、建設計画の高山地区のまちづくりの方向性を**住宅を中心としたまちづくりから、産業を中心としたまちづくりへ変更**。

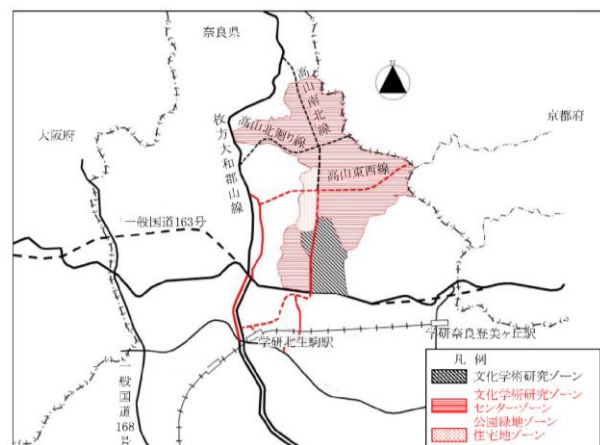
変更前

- (1)機能別土地利用面積
「文化学術研究ゾーン」 約78ha
「住宅地ゾーン、公園・緑地ゾーン」 約255ha
- (2)立地制限 研究開発型産業施設のみ立地可
- (3)土地利用図



現行

- (1)機能別土地利用面積
「文化学術研究ゾーン」 約45ha
「住宅地ゾーン」 約30ha
「文化学術研究ゾーン、センターゾーン、公園・緑地ゾーン」 約258ha
- (2)立地制限
現行に加え、文化学術研究を支援する産業施設等も可
- (3)土地利用図



※ 奈良県の資料を用いて作成。

けいはんな学研都市第5期ステージプラン –ポスト万博シティけいはんな– について

｜ステージプラン策定の目的

- 「**ポスト万博シティ**」としての役割を受け、実証都市としての強みのさらなる発展
- 研究成果を早期に社会実装し、研究成果の活用・拡大を図るステージへの進化

｜第5期ステージプランのビジョン(R8.3策定)

【本都市が果たすべき役割】

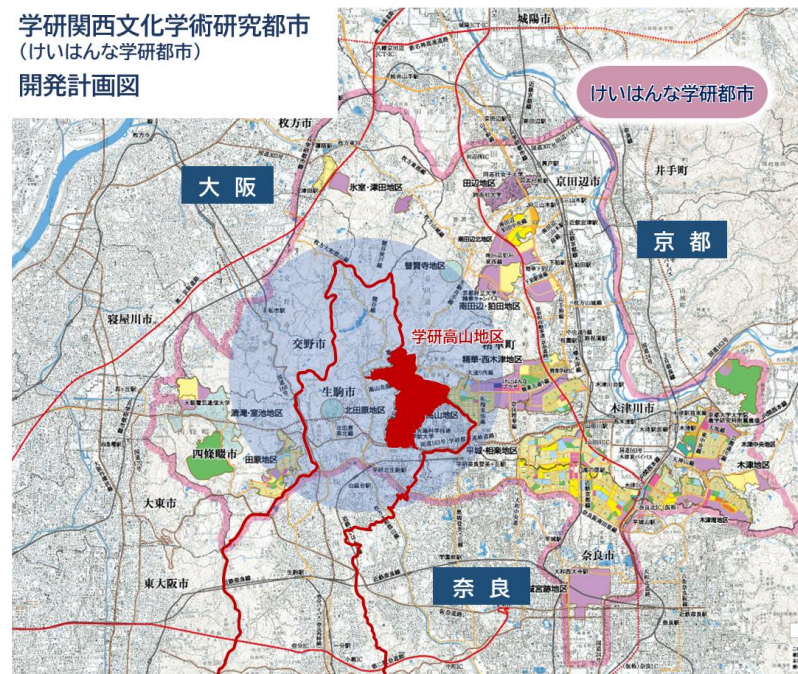
世界の未来への貢献／多様な知と文化の融合による新たな価値創造

【目指すべき都市像】

- ① 研究成果を現実社会に活用し、持続的に発展する「未来都市」
- ② イノベーション創出の原動力となるクリエイティブな人材が活躍する「人材成長都市」
- ③ 異なる価値観が交差し、新たな連携・交流が生まれる「共創都市」

学研関西文化学術研究都市
(けいはんな学研都市)

開発計画図



出典：関西文化学術研究都市推進機構

｜ビジョン実現に向け、学研高山地区が果たすべき役割

- 関西の成長に寄与する東西軸等の他の拠点との広域連携
- 奈良先端大を中心に、文化学術研究施設・研究開発型産業施設の集積
- デジタル化を推進するための社会インフラ(高付加価値データセンターなど)の立地による特徴あるクラスター整備
- 文化・学術・研究の成果をいかす産業施設や生産施設の集積
- デジタル・AI関連産業やスタートアップ等の集積によるイノベーション拠点の形成
- 最先端技術と伝統・文化との融合
- 次世代型都市インフラの整備(交通等)の推進による、スマートで持続可能な都市機能の集積
- 内陸部に位置する特性を活かした強靱で持続可能な国土・地域づくり など

※ 第5期ステージプラン 第5章「ビジョン実現に向けた取組」から学研高山地区に関係が深い取組に関する記述を抽出

けいはんな学研都市第5期ステージプランの実現にむけて

国の施策動向を踏まえた企業集積

日本成長戦略における17分野

AI・半導体	デジタル・サイバーセキュリティ	情報通信
量子	防衛産業	航空・宇宙
海洋	造船	マテリアル
合成生物学・バイオ	創薬 先端医療	資源・エネルギー・GX
フュージョンエネルギー	防災・国土強靱化	港湾ロジスティクス
フードテック	コンテンツ	



学研高山地区第2工区の強み

■ 奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)の存在

- > 研究領域3分野(物質創成科学(マテリアル)、バイオサイエンス、情報科学)
- > 奈良県立医大との医工連携(創薬・先端医療)

■ 関西電力変電所の存在(安定した電力供給が可能)

- > データセンターの立地による関連施設誘致(AI・デジタル)

■ 丘陵地であり災害リスクが比較的小さい

- > 防災・国土強靱化

■ 市街化区域・約288haという広大な未利用地

- > 文化学術研究施設・研究開発型産業施設の集積
- > 特徴あるクラスター整備・イノベーション拠点の形成
- > 研究成果を実装する生産施設の導入

奈良先端大と生駒市の連携による取組みについて ①

包括連携に関する協定(締結日 R3.10 / R8.4)

協定書 第2条(連携・協力)

■ J-PEAKSと連動したまちづくりに関すること。

1 学研高山地区第2工区の開発に関すること。

2 多文化交流の推進に関すること。

J-PEAKS(地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 文部科学省)

■ 目指す10年後の大学ビジョン

研究シーズの社会実装をデジタル技術で推進し、国際連携の下で人口減少社会の持続的発展に貢献する大学

■ 事業の期間

令和7年4月
～令和12年3月(5年間)

■ 事業の概要

[戦略1]
東南アジア諸国からの戦略的な人材リクルートと育成

[戦略2]
自律的研究強化・社会実装システムの構築と共有

■ 事業概要

日本全体の研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくために、大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援と並行して行う事業。

強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営の下、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力強化を図る環境整備を支援する。



※ 出典:奈良先端大HP

奈良先端大と生駒市の連携による取組みについて ②

- 学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業 -

事業概要

- ・ 学研高山地区のみならず、その**整備効果を周辺地域にも波及**させるため、周辺地域のニーズを把握。
- ・ 伝統文化・歴史や自然と最先端が融合した拠点形成を目指し「地権者・周辺住民・奈良先端大等」が参加し意見交換を実施。
- ・ 学研高山地区及び周辺地域の価値向上につながる、公民連携による**拠点構想案を作成**。

経過概要

意見交換会

地域の魅力や特徴について、2回の意見交換(ワークショップ)を実施。

アンケート調査

意見交換会の結果をもとに、求められる拠点について、市民等を対象にアンケートを実施。

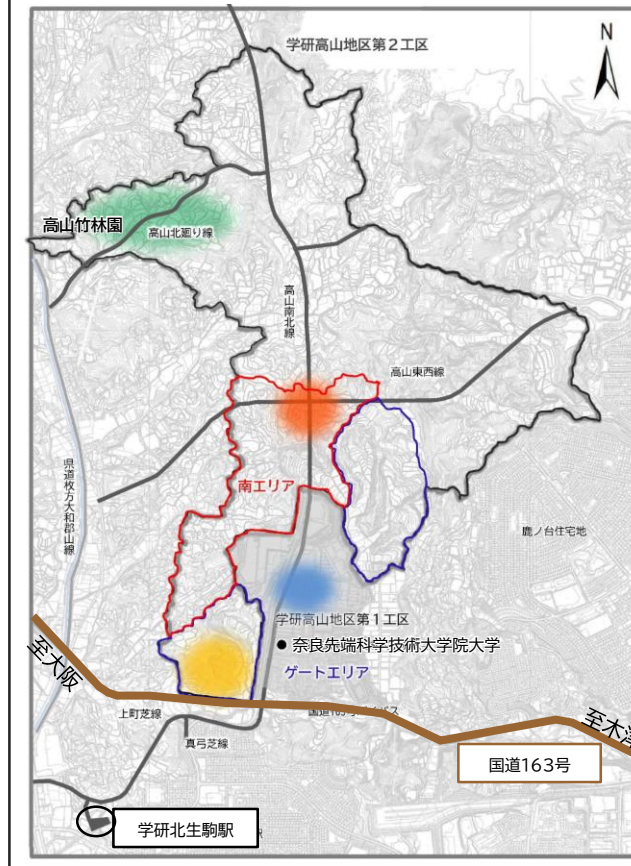
意見交換会

意見交換、アンケート結果などを踏まえ、3回の意見交換を行い、4か所の拠点構想案を作成。

拠点構想提案報告会

参加者から市・奈良先端大に対して、拠点構想提案を報告。

意見交換を行ったエリア



自然・歴史文化との共生拠点

豊かな自然環境、歴史文化資源、伝統産業と最先端技術の融合、高山竹林園との連携。

周辺地域の暮らしの充実拠点

人の交流と賑わいを生み出す公共的空間。多様な生活に対応する生活利便施設や、他の学研都市との連携による学研高山地区の中核拠点。

大学と地域の連携・協力拠点

先端大の教育研究活動や産官学の連携、研究者等の育成やイノベーション創出を促進する拠点。

広域的な地域交流拠点

国道163号沿いで学研高山地区の玄関口にふさわしい交流と賑わいのある拠点。地域の魅力発信や自然の仕組みを利用した整備。